

わ

が

街

わ

が

故

郷

## 光洋精工株式会社 本社所在地－心斎橋

光洋精工株式会社は、大正10（1921）年1月に光洋精工社として大阪市東成区猪飼野東4丁目で創業されました。【詳しくは「ベアリング 第45巻 第12号（2002年12月号）」参照。】

その後、数回の移転を経て、昭和47（1972）年に現在の所在地である大阪市中央区南船場3丁目に本社を移転いたしました。



光洋精工 本社

大阪市内の中心地キタとミナミを南北に結ぶ御堂筋と東西に走る長堀通が交差するこのあたりは、古くから心斎橋と呼ばれてきました。大阪ミナミの中心的な繁華街であり、江戸時代からの歴史を持つ心斎橋筋商店街もこのすぐ近くにありま。心斎橋からこの心斎橋筋商店街を南に徒歩で10分程度のところに、テレビなどでお

なじみの大阪名物「かに道楽のかに看板」や「グリコのネオン」のある道頓堀があります。



昭和30年代の心斎橋筋



現在の心斎橋筋

心斎橋の地名は、長堀川（現在の長堀通）にかけられた橋に由来するものです。橋の名前は、長堀川を開削した4名のうちのひとりで、その橋の建設に私財を投じた京都出身の岡田心斎の名から命名されたものとされています。初代の心斎橋は、元和8（1622）年に長堀川の開削と同時

に架けられ、長さ18間(約35m)幅2間半(約4m)の木橋であったようです。昭和39(1964)年に長堀川が埋め立てられることにより心齋橋は取り壊されました。しかし、その当時長堀川に架けられていた橋は、長堀通を渡る歩道橋の頂部に移築され、石造りのアーチ橋が道路上の空中に浮いているように見える特異な構造の歩道橋に生まれ変わりました。マイケル・ダグラス主演で松田優作の遺作となったことで有名なハリウッド映画「ブラック・レイン」の中にも、この歩道橋が登場するシーンがありました。



歩道橋となった心齋橋



現在の心齋橋(横断歩道)

平成9(1997)年には、長堀再開発により長堀通の地下に店舗床面積9,500㎡の大規模地下ショッピングモール「クリスタ長堀」が完成しました。この工事の際に歩道橋は撤去されましたが、心齋橋の(橋梁の)構造物の一部が再利用されました。心齋橋が架かっていた辺りの中央分離帯などに橋の高欄の一部分やガス灯が使わ

れており、レトロな橋のような構造の横断歩道となっています。



心齋橋高欄

地下街の天窗部分に当たるその橋の下には実際に水が流れる構造となっており、川にかかる本物の橋のようです。地下街側から見ると天井から差し込む明るい光、天井を流れる水、本当に地下にいるのかと疑ってしまうほどの開放感があります。日本最先端であるといわれる大阪の地下街文化、それを証明する地下街となっています。

大阪は水の都とも呼ばれ実際に橋も多く、心齋橋のように橋に由来する地名も数多く残っています。江戸時代から江戸の八百八町に対し、大阪は八百八橋といわれてきました。ところが橋の数からいえば江戸(約350)の方が、大坂(約200)に比べ遙かに多かったそうです。にもかかわらず大阪はそう呼ばれたのでしょうか。それは、橋の種類に違いがあったためという説があります。大阪の橋は、心齋橋のようにその大部分が「町橋」という町人たちがその費用を出し合って架橋、管理するものであったようです。それに対し、江戸はその半数程度が、幕府が費用負担し架橋、管理を行う「公儀橋」であったためと考えられます。このように大阪の橋は、そのまま街の人々の豊かさ、勢いの象徴であっ

のために、「大坂の八百八橋」と呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

心斎橋を南北に走る御堂筋は、大阪の中心的な繁華街であるキタとミナミを結ぶメインストリートであるだけでなく、大阪の「先駆的」気質、いかえれば「新しい物好き」の象徴でもありました。昭和12（1937）年に、歩道、側道、車道、緑地と区分された当時では誰もが驚くような画期的な幅約44メートルの道路が完成しました。



開通当時の御堂筋

緑地には当時街路樹として主流であったプラタナスではなく、国際都市にふさわしくということでイチョウが植えられました。現在も約830本のイチョウ並木が現存しており、御堂筋を黄色一色に染める姿は大阪の秋の風物詩となっています。この御堂筋建設事業を推進したのは、自動車時代の到来を予感した第7代大阪市長の関一（せき はじめ）氏でした。当時としては画期的なこの事業計画に議会は、「船場の真ん中に飛行場でも作る気か」と激しい議論となったようです。しかし、時代の到来は、関市長の予測をも大きく越え、30年後の昭和45（1970）年には、自動車の交通量増加が激しく渋滞が目立ち始めたため、南行き的一方通行道路となってしまいました。

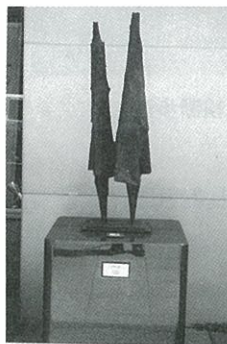


現在の御堂筋

現在、土佐堀通から長堀通までの御堂筋には、沿道の企業や団体から寄贈された国内外の26体の彫刻が設置されています。夜間は様々な色の照明に照らされ、昼間とは違った美しさを見せています。



彫刻  
（二つに分断された人体）



彫刻  
（少年と少女）



彫刻  
（ヴェールを持つヴィーナス）

毎年9月には御堂筋を国内外から集まった100近くのフロートや団体が行進する御堂筋パレードが実施され、100万人を超える観客を集めています。昨年で22回を数えており、光洋精工も過去に参加していた時期もありました。その御堂筋を越えた西側（西心齋橋）には「アメリカ村」（通称 アメ村）と呼ばれる一帯があります。約30年程前にアメリカ西海岸に憧れた人達によって生まれた町は、時代の流れに敏感に反応しながら常に大阪の流行の最先端を走りつづけ、現在も大阪の流行の発信源となっています。この流れは北堀江、南堀江、南船場など隣接する地域に広がり、大阪の新しい文化を支えている地域となっています。最近では心齋橋周辺の御堂筋、長堀通に「シャネル」、「マックスマラー」や「ルイ・ヴィトン」などのブランドから「adidas」や「GAP」などのスポーツ・カジュアルブランドまで30ヶ所以上の海外有名ブランド直営店が相次いで開店し、「ブランドの街」の趣となっています。その周辺には喫茶店を併設したギャラリー、画廊も増えています。



ブランド店  
(LOUIS VUITTON)

時代を先取りし時代の流れに相応しい街となるために、心齋橋周辺は従来の「ビジネスの街」から「ファッションと芸術の街」というまったく違った顔も見せはじめています。

大阪にお越しの節は、USJ、大阪城、通天閣だけでなく、光洋精工本社のある心齋橋周辺にもぜひお越しくください。

（本文：光洋精工株式会社 中山 敦央）  
（撮影：光洋精工株式会社 前川 哲也）  
（資料・写真協力：(財)大阪都市協会）